マナビエ
MANABIE

記述の設計図　第3部 組み立てる

U07　文にする（主語述語・指示語と比喩・具体例・文末）

ベーシック

対象：小学5年・偏差値55〜60

1. 要点（ルール）
2. 例題　物語文「青い色えんぴつ」
3. 練習1・練習2（解答らんつき）
4. 解答と採点表

要点　文にするときのルール

R07-1　本文の言葉で書くのが基本（判定表）

答えは本文の言葉で作る。自分の言葉に言いかえるのは、次の3つのときだけ。①指示語（それ・その・そうした）②比喩（たとえ・慣用句）③具体例（例のならび・セリフ）。それ以外の言葉は、本文の言葉をそのまま使ってよい。

R07-2　指示語は中身を入れる

指示語は、指している中身を本文の前のほうからさがして入れる。入れたら、指示語の所に当てはめて読み、意味が通るかを確かめる。

R07-3　比喩はふつうの言葉に

「胸のつかえ」「明かりがともる」のようなたとえ・慣用句は、本当は何のことかを、ふつうの言葉で書く。本当に胸に何かがつかえているわけではない。

R07-4　具体例はまとめる（抽象化）

例のならびやセリフは、意味を変えずに短くまとめる。「このように」のあとに、まとめの言葉があることが多い。まとめたら本文にもどって、意味が変わっていないかを確かめる。「具体的に」と言われたときは、例を入れて書く。

R07-5　主語と述語を合わせる

「～は」と文の終わりだけをつないで読む。「リナの気持ちは……うれしくなった。」はねじれている。だれの、何の話かをはっきりさせる。

R07-6　文末は最後の確認

どういうことか→「～こと。」／なぜ→「～から。」／気持ち→「～気持ち。」／どのような工夫か→「～工夫。」（聞かれた言葉で終える）。ただし、終わり方だけ合わせても点にならない。先に、中身が言いかえになっているかを確かめる。

ルールの番号（R07-○）は、講座全体の通し番号です。動画・Webページ・このPDFで同じ番号を使っています。

例題　物語文「青い色えんぴつ」

① ハルは、となりの席のユウから借りた色えんぴつの青を、うっかり落として折ってしまった。ユウがいちばん大事にしている、空の色の青だった。

② 「あとで言おう。」そう思っているうちに、三日がすぎた。そのことを考えると、ハルは給食の時間も、休み時間も、なんだか落ち着かなかった。ユウが笑いかけてくれても、つい目をそらしてしまう。

③ 四日目の帰り道、ハルは思いきって立ち止まった。

④ 「ユウ、ごめん。借りた青、折っちゃったんだ。ずっと言えなくて。」

⑤ ユウは、少しおどろいた顔をした。それから、ランドセルの横をぽんとたたいて言った。

⑥ 「なんだ、そんなこと。青はもう一本あるから、だいじょうぶだよ。それより、明日もいっしょに帰ろう。」

⑦ その言葉を聞いたとたん、ハルは、胸のつかえがすっととれた。三日ぶりに、ユウの顔をまっすぐに見ることができた。

⑧ 家に帰ると、ハルは自分の筆箱から新しい青を一本取り出した。そして、明日ユウにわたそうと、ランドセルのポケットにそっと入れた。

問　――線部「胸のつかえがすっととれた」とありますが、どういうことですか。五十字以内で説明しなさい。

解き方

1. **手順1　聞かれていることを確かめる**
   「どういうことか」は、――線部を、本文を読んでいない人にもわかる言葉に言いかえる問題。

2. **手順2　判定表で言葉を分ける**
   「胸のつかえ」「すっととれた」は比喩→言いかえる。②の「そのこと」は指示語→中身を入れる。⑥のユウのセリフは具体例→短くまとめる。「三日」「言えなかった」はふつうの言葉→本文のまま使う（R07-1）。

3. **手順3　言いかえる**
   胸のつかえ＝ずっと気になっていたなやみ。すっととれた＝なやみがなくなって、ほっとした。そのこと＝借りた青を折ったこと。セリフ＝ユウが許してくれた（R07-2〜4）。

4. **手順4　主語と述語を合わせる**
   「ハルは……安心した」と、だれの話かをはっきりさせる（R07-5）。

5. **手順5　最後に文末**
   「どういうことか」なので「〜ということ。」。ただし文末は最後の確認。「胸のつかえがとれたということ。」は、形は合っていても中身が言いかえになっていない（R07-6）。

判定表(本文の言葉か、自分の言葉か)

答えに使う言葉	判定と言いかえ	根拠	どうする？
胸のつかえ／すっととれた	比喩 → ずっと気になっていたなやみがなくなり、ほっとした	②⑦	◎ 言いかえる
そのこと	指示語 → 借りた色えんぴつを折ったこと(を言えずにいること)	①②	◎ 中身を入れる
「なんだ、そんなこと。…」	具体例(セリフ)→ ユウが許してくれた	⑥	○ まとめる
三日／言えなかった	ふつうの言葉(本文の言葉)	②④	○ そのまま使う

模範解答

模範解答　49字／50字以内

借りた色えんぴつを折ったことを三日も言えずになやんでいたが、ユウが許してくれて安心したということ。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
比喩の言いかえ：なやみ(心配)がなくなり、ほっと安心した(気持ちが軽くなった)	5点
中身：借りた色えんぴつを折ったことを言えずにいた／ユウが許してくれた	3点
指示語・セリフ・比喩を、答えにそのまま残していない	1点
文末が「～こと。」	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「胸のつかえがすっととれたということ。」	比喩のまま。文末の「こと。」だけ合っていても、中身が言いかえになっていないので0点。
「そのことが、やっと解決したということ。」	指示語のまま。何が解決したのかが伝わらない。中身の3点が入らない。
「ユウが『なんだ、そんなこと。青はもう一本あるから、だいじょうぶだよ』と言ったから、安心した。」	セリフをそのまま写して字数を食っている。何に悩んでいたかが入らず、文末も「から。」でずれている。
「ハルの気持ちは、ユウに許されて安心した。」	「気持ちは……安心した」で主語と述語がねじれている。文末もちがう。2点引く。
五十一字以上	字数オーバー。採点されないことが多い(0点)。

練習1　説明文「雪国の家」

① 日本には、冬になると、雪が二メートル以上もつもる地方がある。そうした地方の古い家を見ると、雪の少ない地方の家とはちがうところが、たくさん見つかる。

② まず、屋根のかたむきが急である。屋根に雪がたくさんつもると、その重さで、家がつぶれてしまうことがある。屋根を急にしておけば、雪は自然にすべり落ちる。

③ 次に、玄関の外に、もう一つ小さな部屋のような囲いがついている。「風除室」とよばれるもので、戸を開けたときに、つめたい風や雪が家の中にふきこむのをふせいでいる。

④ また、一階のゆかが、地面よりもずっと高くつくられている家も多い。つもった雪で、一階の窓や戸口がうまってしまわないようにするためだ。

⑤ このように、雪国の家には、雪の重さや寒さに負けずにくらすための知恵がつまっている。そうした工夫は、長い年月をかけて、その土地に住む人々が、失敗をくり返しながら少しずつ生み出してきたものなのだ。

⑥ 今では、雪をとかす機械のついた新しい家もふえた。それでも、急な屋根や風除室は、雪国の町のあちこちで、今も人々のくらしを守っている。

問　――線部「そうした工夫」とありますが、どのような工夫ですか。四十五字以内で説明しなさい。

① 判定表を書こう

答えに使う言葉（指示語・比喩・具体例・そのまま）	言いかえ	根拠の段落

② 答えを書こう

									10										20
									30										40

45字以内（1マスに1字。句読点も1字）

練習2　物語文「空の色」

① リナは、絵をかくのが苦手だった。クラスの友だちの絵はどれも上手に見えて、図工の時間が来るたびに、ためいきが出た。自分の絵を見られるのがいやで、できあがった絵は、いつもすぐに裏返していた。

② 写生大会の日、リナは学校の屋上から見える空をかいた。雲の形は、どうしてもうまくかけなかった。せめて色だけはと思い、青と白と、ほんの少しのむらさきを、何度も重ねてぬった。

③ 絵を集めに来た先生が、リナの絵の前で足を止めた。

④ 「この空の色、すてきだね。夕方になる少し前の空だ。こういう色は、空をよく見ている人にしか出せないんだよ。」

⑤ リナは、何と答えたらいいのかわからず、小さくうなずいただけだった。けれども、その日の帰り道、心に小さな明かりがともったような気がした。見上げた空は、ちょうど絵の中と同じ色をしていた。

⑥ 家に着くと、リナはランドセルを置くより先に、母に言った。

⑦ 「ねえ、新しい絵の具、買ってもいい？　青のなかまを、もっとふやしたいの。」

問　――線部「心に小さな明かりがともった」とありますが、このときのリナの気持ちを、五十字以内で説明しなさい。

① 判定表を書こう

答えに使う言葉（指示語・比喩・具体例・そのまま）	言いかえ	根拠の段落

② 答えを書こう

									10										20
									30										40
									50										

50字以内（1マスに1字。句読点も1字）

解答と採点表

練習1　説明文「雪国の家」

解き方

1. **手順1　指示語に気づく**
   ――線部の「そうした」は指示語。何を指しているかを、前の段落からさがす（R07-2）。

2. **手順2　「このように」を見る**
   ⑤段落の「このように」のあとに、まとめの言葉がある＝「雪の重さや寒さに負けずにくらすための知恵」。本文にまとめの言葉があるときは、それを使う（本文主義と同じ向き）。

3. **手順3　具体例をまとめる**
   ②屋根が急・③風除室・④ゆかが高い は具体例。ならべて写さずに「家のつくり」とまとめる（R07-4）。

4. **手順4　文末**
   「どのような工夫か」と聞かれているので「～工夫。」で終える（R07-6）。

判定表

答えに使う言葉	判定と言いかえ	根拠	どうする？
そうした	指示語 → ②～④の、家のつくりの工夫	②～⑤	◎ 中身を入れる
屋根が急・風除室・ゆかが高い	具体例 → 家のつくり（にこめた工夫）	②③④	◎ まとめる
雪の重さや寒さに負けずにくらすための知恵	本文のまとめの言葉	⑤	◎ そのまま使う
失敗をくり返しながら生み出した	どのように生まれたか（聞かれていない）	⑤	△ 字数があまれば

模範解答

模範解答　44字／45字以内

雪国に住む人々が、雪の重さや寒さに負けずにくらすために、家のつくりに取り入れてきた工夫。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
目的:雪の重さや寒さに負けずにくらすため	5点
まとめ:家のつくり(屋根・風除室・ゆか)を一つの言葉にまとめている	3点
指示語「そうした」を答えに残していない	1点
文末が「〜工夫。」	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「屋根を急にし、風除室をつくり、ゆかを高くする工夫。」	具体例をならべただけ。何のための工夫かが無いので、目的の5点が入らない(10点中3点)。
「人々が失敗をくり返しながら少しずつ生み出した工夫。」	どうやって生まれたかの説明で、どのような工夫かに答えていない。2点。
「そうした雪国の家の工夫。」	指示語のまま。中身が無い。1点。

練習2　物語文「空の色」

解き方

1. **手順1　判定表**
   「明かりがともった」は比喩→言いかえる。④の先生のセリフは具体例→まとめる。「絵をかくのが苦手」はふつうの言葉→そのまま使う(R07-1)。
2. **手順2　比喩を言いかえる**
   暗かった心に明かりがつく＝苦手でゆううつだった気持ちに、少し自信や希望が生まれた。「小さな」も生かして「少し」と書く(R07-3)。
3. **手順3　セリフをまとめる**
   「この空の色、すてきだね。……」＝先生に空の色をほめられた(R07-4)。
4. **手順4　主語と述語・文末**
   気持ちを聞かれているので「〜気持ち。」で終える一文にする。「リナの気持ちは……うれしくなった。」とねじれさせない(R07-5・R07-6)。

判定表

答えに使う言葉	判定と言いかえ	根拠	どうする？
明かりがともった	比喩 → 少し自信や希望がわいた	⑤	◎ 言いかえる
「この空の色、すてきだね。…」	具体例(セリフ)→ 先生に空の色をほめられた	④	◎ まとめる
絵をかくのが苦手	ふつうの言葉(前の気持ち)	①	○ そのまま使う
新しい絵の具を買いたい	あとの行動(気持ちの確認に使う)	⑦	△ 入れなくてよい

模範解答

模範解答　49字／50字以内

絵をかくのが苦手だと思っていたが、先生に空の色をほめられ、自分の絵に少し自信と希望がわいた気持ち。

採点表

採点表(要素ごとの配点)	点
比喩の言いかえ：自分の絵に少し自信(希望)がわいた	5点
きっかけ：先生に空の色をほめられた(セリフをまとめている)	3点
前の気持ち：絵をかくのが苦手だと思っていた	1点
文末が「～気持ち。」で、主語と述語がねじれていない	1点
合計	**10点**

減点の型(こう書くと)	何点になる？ なぜ？
「心に小さな明かりがともった気持ち。」	比喩のまま。文末だけ合っていても0点。
「うれしい気持ち。」	比喩は言いかえたが、「小さな明かり」＝これからへの少しの自信・希望が入っていない。5点中2点。
「リナの気持ちは、先生にほめられてうれしくなった。」	主語「気持ちは」と述語「なった」がねじれている。文末も「気持ち。」でない。1点引く。

マナビエ
MANABIE

記述の設計図　U07 文にする（ベーシック）

© MANABIE　無断転載・複製・改変・再配布を禁じます